

絵の具を溶く準備から一緒にと行くと、子ども達は興味津々です。画用紙と筆を置き、何をやる指示もなく、自然に始まりました。

紙に塗り、色が混ざる様子に「いろがかわった！」と声を上げます。容器から絵の具をこぼしてみます。容器の中で色を混ぜます。手足、腕、床にも塗っていきます。シートの上に描き、絵の具がはじくのを見つめています。色のついた澱粉のりを出すと、絵の具と混ぜ、手に塗っています。

いつの間にか、それぞれが夢中で遊び込み、静かです。そのまなざしは真剣です。

大人は困らない準備をし、覚悟を決めていたので、制限する事なく見守っていました。声掛けも控えめだったせいか自分なりの興味のまま、自分の世界に入っていたのでしょう。

ある子は1時間以上ティッシュを絵の具に浸し、絞り、形を作る事を繰り返しています。水の含み具合、絞る事、机の絵の具をどうしたら集められるかを、自分で考え、試しながら探求しています。

絵の具を流す、混ぜる、描く、入れ替える、飛び散らせる、など興味がある事は1人1人違いました。自分で遊びを展開していき、大人に頼る声はありません。やりたい事をやっていると、子ども達は寛容で、平和です。そして、どんな行動にも理由がある事が見えてきます。

大人の声や反応は、子ども達に影響してしまう。自由を制限する設定ではなく、自由に遊んでも大人が困らない設定を考える。覚悟を決めて、大人も同じ世界に入って見守ることが、一人ひとりの感性を育てます。

大人に全てを決めてもらうのではなく“あなたはどうしたいのか”を大事にすることが、主体的に生きる根っこになるはずです。

